

ISESAKI MUNICIPAL HOSPITAL

ふれあい

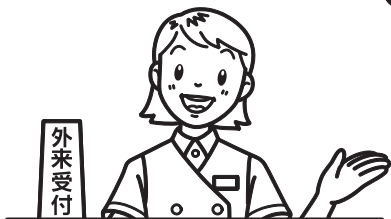
第9号

伊勢崎市民病院だより

2004年1月

〒372-0817 群馬県伊勢崎市連取本町12番地1
TEL 0270-25-5022(代) FAX 0270-25-5023
<http://www.hospital.isesaki.gunma.jp>

女性総合外来が始まりました



伊勢崎市民病院では、女性医師による女性総合外来を平成16年1月5日(月)に開設いたしました。女性特有の身体的症状、精神的な不安などについて、女性医師がカウンセリングを行います。診療科を限定しない窓口的な総合外来として必要に応じ専門医への紹介など、適切な医療を受けられるように支援いたします。

- 診療日時 毎週月曜日 午後1時30分～4時30分
- 場 所 伊勢崎市民病院 1階Aブロック 105番の診察室
- 対 象 小児以外の女性の方
- 申し込み方法

- 1 完全予約制のため、電話でご予約をお受けいたします。
- 2 予約受付日時 月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分
電話:病院 0270-25-5022 内線5123
- 3 診療日時、予約受付日時とも病院の休日(土曜日・日曜日・国民の祝日及び12月29日～翌年1月3日)には行いませんのでご注意ください。
- 4 女性総合外来のご予約は、女性事務員が担当させていただきます。「女性総合外来の予約を」とお申し出下さい。1人30分ぐらいの診察となります。

- 診療費
保険適用外(自費)となります。1回5,000円(別途消費税がかかります)

女性総合外来の流れ

①予約10分前までに事前に問診表の記入をお願いします。

②女性医師によるカウンセリング

治療が必要な場合

当院専門医

紹介

他医療機関

(女性医師への紹介に配慮)



脳血管障害（脳卒中）について

赤城山にも初雪が降り本格的な冬に入りました。いかがお過ごしでしょうか？ さて、冬は脳卒中が増える季節です。脳卒中には脳の血管が切れて出血するもの（くも膜下出血・脳内出血）と脳の血管がつまってしまうもの（脳梗塞）の二通りがあります。

くも膜下出血は脳の表面をはしる比較的太い血管に瘤（脳動脈瘤）ができてそれが破裂して出血するもので、特徴的な初発症状は突然の後頭部から後頸部にかけての激しい頭痛と嘔吐です。くも膜下出血に伴う頭痛についてはよく"金槌で殴られたような頭痛"と形容されます。どのような頭痛かは想像がつくでしょう。実際ある患者さんは"漬け物石が頭の上に落ちてきたかと思った"と話されていました。脳内出血は脳の中の細い血管が切れて出血するもので、症状は出血した場所や出血の量により様々ですが、多くの場合突然片方の手足が動かなくなり意識がおかしくなったりします。頭痛や嘔吐を伴うこともあります。くも膜下出血も脳内出血も重篤な場合はそのまま意識がなくなり突然死することもあります。

脳梗塞は脳を養う血管が動脈硬化で少しづつつまってしまうたり（脳血栓症）、心臓の病気（心房細動などの不整脈や心臓弁膜症な

ど）が原因で心臓の中にできた血の塊（血栓）が脳の血管に流れていって急に塞いでしまう（脳塞栓症）などの原因でおこります。症状はごく細い血管の場合は意識ははっきりしているのに片方の手足が動かないといった症状から、太い血管の場合では意識がなくなってしまふものまで様々です。一般的に初めに頭痛を伴うことは稀です。

脳卒中は予防が大事です。特に高血圧や心臓病をお持ちの方は、きちんと治療をして健康管理に気をつけましょう。また脳動脈瘤や細くなった脳の血管は発病する前に検査でわかることもあります。心配な方は脳の人間ドックを受けたり、脳神経外科や神経内科へ相談されるとよいでしょう。



脳神経外科 主任診療部長
小野田 公夫

ついで

「チョコレートケーキ」



その人は私が入っていくと、唇をかねで部屋の隅を指さした。そこには180度のチョコレートのケーキがテーブルの上に乗っていた。「あの子はね、私が食べられないことを知っていたわざと持ってきたんだよ。当てつけているんだよ。悔しい。おいしいケーキなのに。」ベッドに力無く横たわったその人の目から涙が溢れてきた。私は知っていた。その人は「あの子」を妹のようにかわいがっていた。あの子の焼くケーキは本当においしいともほめていた。

その人の病気が再発したと知って、あの子は昨夜遅く仕事が終わってからチョコレートケーキを焼き、そして殆ど眠らないで車をこぼして今朝届けにきたのだ。これを食べて元気を出して「くっ」と眠り込んでいるその人を見て声をかけずにケーキを置いて立ち去ったのだ。

しかし、その人の病気は予想よりも急速に進んでおり、昨日から食事が、いや水すらもほとんど通らない状態になっていた。予約日を待たずに明日にでも病院を受診しなくてはと相談していた日の出来事だった。絶望感が、やるせない怒りが、人の言葉を、態度を、そして心も変えていく。普段なら言うはずのない冷たい言葉がむせび泣きに変わってしまふ。続いていた。

X線検査を受けるときに

なぜX（エックス）線検査の時、脱衣したり検査着に着替えなくてはならないのでしょうか？それには理由があります。今回は一般撮影を例にしてお話したいと思います。

一般撮影とは現在、最も広く行われている検査です。代表的なものとして、健康診断の時の胸部写真や、骨折が疑われる時の手足等の写真で、みなさんも一度は検査を受けたことがあると思います。X線は人体を通り抜けることができ、その間で弱まります。その弱まり方は骨や臓器、脂肪など通り抜けた部位により異なってきます。それが体内組織の影絵となって写真に写し出されたのがX線写真です。X線の弱まり方の差はごくわずかで、注意深く読影しないと異常部位を見つけることはできません。撮影目的部位に金属類や湿布、装飾品、ボタン、衣類のプリント（塗装に金属が含まれている）などがあると一緒に写ってしまい、診断に支障をきたす場合があります。

そこで、当院では検査着を用意し、利用していただいています。検査着の素材は不織布（紙を原料とし布様にしたもの）で診断に影響しないことを確認しています。胸部用とトランクスを用意

しておりますので担当技師にお話し下さい。CT、MR、RI検査については、予約時お渡しする検査説明書に書いてありますのでご一読下さい。



検査着

中央放射線科技師長 関根一正

「糖尿病療養指導士」による継続看護をめざして

糖尿病の初期は自覚症状がなく、治療が中断してしまったり、自己管理がうまくいかず病状が進んでしまうことが少なくありません。そこで、糖尿病の療養指導に関する幅広い知識をもった看護師が「糖尿病療養指導士」という資格をもとに患者様の生活や社会的条件を考慮して確実な自己管理ができるように援助をおこなっています。

現在は、毎週金曜日の午後の糖尿病専門外来に2名の糖尿病療養指導士が診療介助にあたっています。そして初めて糖尿病と診断された患者様に対しては注意事項の説明や自己管理方法を説明しています。また、うまくいかない患者様に対してはインスリン自己注射法や糖尿病全般について患者様とともに再確認をしたり、日常生活のアドバイスをしています。このような外来での指導のほか、私たち糖尿病療養指導士は病棟に入院されている患者様への看護援助も行い、在宅から入院まで糖尿病に関する一貫した継続看護をめざしてがんばっています。外来業務を行いながらの指導

のため、すべての患者様に声をかけることができない現状ですが、できる限り患者様の声を聞き援助できたら良いと考えています。糖尿病以外の相談や質問でも歓迎です。何なりと声をかけてください。

将来、外来相談室ということで独立した相談場所ができ、患者様の相談をいつでもお受けできることを目指し、日々患者様のことを第一に考え頑張っていきたいと思っています。

看護部 糖尿病療養指導士 金井 靖子
中野 恵美子